



文 武 両 輪

ぶん ぶ りょう りん
～勉強も行事も部活動も～

令和6年1月16日

【文責】校長 蔦川 誠

「有終の美」を飾る3学期に！

今日から3学期が始まりました。

3学期に登校する日にちは1・2年生が49日、3年生が39日となります。2学期に登校する日が83日もあったのに比べて、半分ほどしかありません。3学期はとても短い期間です。

しかも3学期は、推薦入試から始まって私立高校入試や県立高校入試、行事でも立志式、卒業式などが続きます。そのため、とても忙しく感じる事が多く、1学期や2学期に比べてあっという間に過ぎてしまうように感じられます。

短いえにとっても忙しい3学期ですが、3学期が終わると、皆さんはいよいよ次の段階（1つ上のレベル）へと進むこととなります。3年生は中学校を卒業して高校へ進学し、1年生は2年生に、2年生は3年生に進級します。

そのため、3学期は次の段階への準備期間ということが言えます。

さらに、3学期には今年度のまとめという意味もあります。

まとめにふさわしい言葉に、「有終の美」（ゆうしゅうのび）という言葉があります。

一般的には「有終の美」を飾るといいう言い方がされます。

「有終の美」とは、「物事をやり抜いて、最後を立派に仕上げる、最後を立派な状態にする」という意味です。皆さんにとって有終の美を飾るとは、1・2年生であれば今年度のまとめとして、3年生であれば今年度だけではなく中学校生活のまとめとして、学校生活を立派に終えることです。ただ、人によって「有終の美」は違うと思います。一人一人がそれぞれの有終の美を飾るために、「自分は何をどうすればよいのか」ということをしっかり考えて実行してください。3学期、是非、皆さんに「有終の美」を飾ってほしいと思います。

それでは、大事な3学期を過ごす上で、ヒントとなるお話をします。

今から100年ちょっと前に活躍していた、幸田露伴という小説家の言葉に、「2種類の努力」という言葉があります。

彼によると努力には2種類あり、一つは「直接の努力」、もう一つは「間接の努力」です。

「直接の努力」は、目の前にある今やらなければならないことに向けて力を尽くすことであり、一方「間接の努力」は将来に向けての準備に力を尽くすことです。

例えば、3年生が数か月後の高校入試に向けて受験勉強に励むのは「直接の努力」であり、1・2年生が数年後の高校入試に向けて家庭学習に取り組むのは「間接の努力」であると言えます。

どちらもとても大切であり、日頃から「2種類の努力」を意識して学校生活を送る必要があります。ただ、普段の学校生活では、必要に迫られて行う「直接の努力」の方を意識することの方が多いのですが、将来の基礎となる「間接の努力」も常に意識していく必要があります。

「2種類の努力」を続けていく上で、注意してほしいことがあります。それは、「努力の方向」を間違わないようにすることです。今現在、あるいは将来に向け自分がやらなければならないこと、すなわち正しい方向へ向けて努力しているかを、時々考えてみてください。

このように3学期は、次の段階に向けて実力を蓄えていく期間です。

1日1日を大切に過ごすとともに、常に「2種類の努力」を意識しながら、学習でも生活でも部活動でも地道な努力を続け、実力を蓄えていきましょう。次の段階で大きな花を咲かせることができるように。（3学期始業式辞から抜粋）

